

世界相撲選手権@バンコク観戦記

塾相撲部長谷川選手出場

慶應義塾体育會相撲部 4 年（主将）の長谷川理央選手が相撲世界選手権女子中量級代表に選出され、バンコクで開催される世界選手権に来タイされました。バンコク三田会は来タイした長谷川選手と塾相撲部奈良監督を会を挙げて応援しました。これはその観戦レポートです。

1. 長谷川理央選手

- ・長谷川選手は相撲が盛んな青森県鰺ヶ沢町出身、舞の海の母校木造高校を卒業し現在は體育會相撲部の 4 年生です。二人のお兄さん（大起、貴規）も相撲部に在籍し 2019 年には東日本学生選手権で活躍し一部昇格に貢献しています。理央選手はそのお兄さんの影響もあり相撲を始め、世界ジュニア優勝など輝かしい成績を掲げ塾相撲部に入部。

- ・昨年、ポーランドで行われた世界選手権中量級で見事、優勝！今大会では日本人女子選手として初めての二連覇に臨みます。

- ・長谷川選手の強さはスピード、パワーに加え技術力、戦術眼、強い精神力を兼ね備えた点です。次の写真をご覧ください。これは長谷川選手がジュニアの時に、当時の横綱白鵬関と稽古をした際の写真です。左の写真、白鵬関の右腕にご注目下さい。胸を貸すだけのぶつかり稽古ですが、理央選手の圧に堪え切れず、右の腕で押し返しています。当時の白鵬関は前人未踏の 1,047 勝を達成した大横綱、その大横綱を思わず本気にさせてしまった美央選手！当時は中学三年生です。



- ・なお相撲は現在、世界 87 か国で行われ世界相撲選手権は 2019 年から開催され、強豪国は日本をはじめウクライナ、ロシアなど。東欧の選手も柔道/レスリングの系統を踏んだ選手が多く侮れない存在のようです。

2. 9月11日（木）

- ・長谷川選手は日本選手団と共に 11 日の早朝、バンコクに到着し会場近くの宿舎に入り夕方

16時の計量に備えます。長谷川選手が出場する女子中量級のリミットは73Kg、今回は減量は上手くできたようです。

・バンコク三田会では奈良監督と相談し、うどんを差し入れる事にしました。皆様お馴染み日置先輩のお店「どんどん」のうどんです。長谷川選手は大のうどん好き、かつ栄養士によれば減量後の体力補給にうどんは最適との事です。奈良監督から差し入れを伝えると長谷川選手、大喜びされていたそうです。更に長谷川選手から小さな声で「すみません、減量で苦労している子達もいるので5人前お願いできませんか。」との事。後輩思いの選手です・・。

・いいですよ、いいですよ、任せて下さい。5人前と言わず10人前を用意しましょう！というわけで日置先輩特製のキツネうどん、肉うどん各5人前、都合10人前。加えて三田会有志のカンパで、北海道産の大福餅20個、カステラ、袋菓子なども準備しました。

・当日17時、宿舎のTK ParaceHotelに赴くと、居るは居るは体重100Kg超えの男女数十名が世界30か国から集まっています。オッ白鵬関も居ますね。アマチュア相撲促進の為に奔走中で、大会視察の為に訪タイされたようです。

・そんな中、長谷川選手やってきました。巨漢揃いの選手に囲まれると171cm73Kgの長谷川選手は小さく見えます、テディベアのような優しい眼をした選手です。

うどん、大福餅、とても喜んでくれ、奈良監督と一緒に記念撮影。期待していますよ！



・帰り途、ふと思い出し長谷川選手に差し入れ食事中の写真を送っていませんか？とお願いしました。返ってきた返事は「すみません、一心不乱に食べてしまって写真は有りません・・。」との事。いいんだよ、いいんだよ、減量明けでお腹すいていたんだよね。「物凄く、美味しかったです。」おじさんはその言葉だけで十二分に満足しました。ンッ？待てよ、10人前では足りなかったかな・・。

3. 9月14日（日）

<2回戦>

・昨日のアジア選手権（長谷川選手優勝）と打って変わり会場の熱気は全く異なり、緊張感に溢れています。長谷川選手と言葉を交わしました。「競合のウクライナ選手とは山が違い決勝ま

で当たりませんか?」、「ハイ、そうですが関係ありません。一戦一戦目の前の相手と戦うだけです。」

・09時45分、シード選手の長谷川選手は二回戦から出場、開始30秒で相手を寄り切りました。次の対戦は15時過ぎ、準決勝・決勝です。

<ガイジン選手の SUMO>

・長谷川選手の次の対戦までガイジン選手の相撲をじっくりと観察しました。
・見慣れた大相撲と何か違います。立会い後、ガツンとぶつかり合う事なくのんびりユッタリです。体格が大きいので押し相撲になるのは止むを得ませんが、4つに組むことは殆どなく、互いに相手の首を抑え込むことに終始しています。ンッ?レスリングを見ているようです。首の下では相手の手首を掴もうと争っていますが、柔道の組手争いのようです。
・日本から駆け付けた塾相撲部元監督の松田さん(99年卒)に解説してもらいました。
「コモトリさん、我々が見慣れている“相撲”とはずいぶん違うでしょう。日本人なら子供の頃から遊びの中で相手と呼吸を合わせて立ち上がる事に慣れています。ガイジンはそれが出来ません。立会いのスピードも練習で鍛えている日本人と違い、遅いので審判から日本選手の早い立会いにクレームが付くのです。手足の長さを使って抑え込もうとするのでレスリングのような戦い方になってしまいます。ただ腕力は凄いですから、日本選手は大いに苦勞します。そんな中で世界チャンピオンになるのですから長谷川は凄い選手です。」 なるほど大いに納得しました。

<白鵬関>



・国際相撲連盟顧問に就任した白鵬関に声を掛け写真をお願いすると快く受けてくれました。
「後輩の長谷川選手の応援です。」「そうですか理央は勝ちますよ、大丈夫。相撲を五輪競技にするため頑張っています、応援してください。」「カッポン!」思わずタイ語 YES と回答していました。

(白鵬関、でかいですね。身長 1790m の僕が小さく見えます。いい人でした)

<準決勝⇒決勝>

・予定より遅れて16時過ぎ、世界選手権女子中量級のメダル争いが始まりました。長谷川選手の準決勝の相手はポーランド選手、素早い立会い後、一挙に押し出しましたが審判より物言

い・・・。立会いが早すぎる、との例のクレームです。気を取り直し再戦しましたが難なく勝ちました。メダルは確定、金か銀の違いです。決勝の相手はウクライナ選手です。

・いよいよ決勝戦、ドキドキします。

立会い、うん上手い！下からかちあげて土俵際に追い詰めた、右手で押し出しを迫る・・・。

次の瞬間、躲かれて相手の長い左腕が長谷川選手の上腕に絡まり押し付けられた・・・。

長谷川選手の手が土俵に付いてしまいました・・・。

良い態勢に持ち込んだのに残念です。

・試合が終わり、「銀メダルおめでとうございます。胸を張って日本に帰ってください。」

と声をかけるつもりで長谷川選手の元へ向かいました。泣き崩れていて、とても声を掛ける雰囲気ではありません。究極の頂を目指す長谷川選手にとって銀は対象外なのでしょうか。

・帰り道、奈良監督よりメッセージが入りました。「応援有難うございます。長谷川は“負けて相撲を辞めるわけにはいかない”と闘志に火がついています。」との凄まじい伝言です。敗戦から1時間も経っていないのに気持ちを切り替え闘志を燃やす、なるほど奈良監督の言われるとおり“漢気のあるアスリート”です。

・長谷川選手は就職先も決まり来年は社会人となります。究極の頂を目指す一人の塾員に我々三田会会員はどんなサポートができるのでしょうか？思案しつつペンを置きます。

長文にお付き合いいただきありがとうございました。

応援指導部80年卒、バンコク三田会会員
小茂鳥 恵